

全員参加の国語科授業を目指す取組について

～文学的な文章における漫画教材との全文比較を通して～

三豊市立高瀬中学校

教諭 白川 健太

1 はじめに

文学的な文章の授業では、多くの場合、教科書を通読する活動が行われる。作品の全容をあらかじめ確認してから、細部の読解や批評に移っていくのだが、通読の時点から授業を放棄してしまう生徒がいるのではないだろうか。作品を初めて読むとき、意見の根拠を書くとき、討論の中で作品中の言葉に注目するとき、生徒は本文の長さに直面する。実際に自分の担当する生徒にアンケートを取ったところ、「国語の授業が嫌い」と答えた生徒の約8割が「文章量の多い作品を読むのが嫌いだから」と答えている。高度情報化が進み、情報媒体が多様化している社会において、まず活字から読ませる国語の授業は、生徒の日常から大きくかけ離れていると考える。

以上のような課題を踏まえると、文学的な文章の授業において、作品との出会わせ方が重要だと考えた。ただ作品を読ませるのでなく、生徒が作品を「読みたい」と思える仕掛けが必要である。そこで、『走れメロス』の授業において、初回の授業から生徒全員が意欲的かつ深い学びを実現できるよう、漫画教材との全文比較読みを通して実践を試みた。

2 実践の内容・方法

(1) 単元構成について

生徒が意欲的に『走れメロス』を読んでいくために、高芝昌子¹の漫画版『走れメロス』を用いた比較読みを核として単元を構想した。漫画という慣れ親しんだ媒体から授業を展開することによって、文章量の多い文学作品に対する抵抗を減らせるからである。

『走れメロス』の漫画作品は多数存在するが、高芝昌子の漫画版『走れメロス』は、原作の流れを大きく崩さず、作者の解釈にもとづいた追加の描写を多数入れ込んだ作品となっている。生徒は、原作と漫画を比較することにより、メロスの人物像のズレに着目することができ、太宰治が設定したメロスの違和感に気づくことができる。そうした漫画との比較読みの中で、生徒は「人物設定」と「主題」の関係を意識した深い読みにたどり着けると考えた。

時	目 標	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
1	・「走れメロス」の漫画版を読み、初読の感想を書くとともに、登場人物について自分の考えをもつ。	あなたは誰推し？ ・漫画を通読し、内容を理解する。 ・初読の感想を書く。	[主体的に学習に取り組む態度] <u>ノート・授業観察</u> ・既習の見方・考え方をを用いて、初読の感想を書こうとしている。

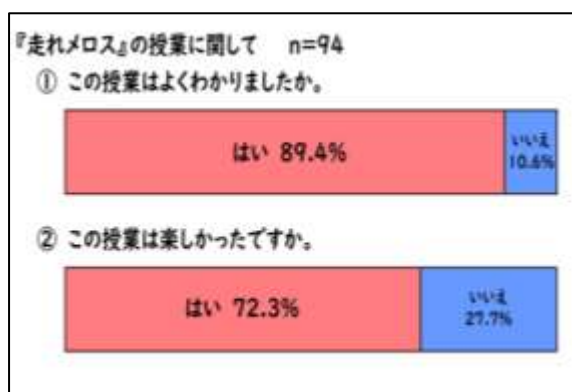
高芝昌子版の人物設定や主題を読み深め、改めてどちらの作品が優れているかを検討していく中で、生徒は、太宰治がメロスを「勇者」と表現しながらも、不完全な人間として描いたことに気づいていく。以下は6時間目に行われた、原作と漫画版のメロスを比較する場面である。(T：教師の発言 S：生徒の発言)

- S 1：原作のメロスは「生かしておけぬ」と発言しているし、王を殺めるつもりだったと思います。
- S 2：漫画版は「一言言ってやらねば気がすまん」だから殺めるつもりはないよね。
- S 1：だから、原作のメロスはやっぱり乱暴な人物のように感じます。
- S 3：帰ってくるときも、途中で諦めようとした場面が漫画版より多いから、原作のメロスって、闇が深いよね。
- T：闇が深いとはどういうことですか。
- S 3：乱暴だし、すぐ諦めるし、人としてダメな部分が多いというか、漫画版みたいに完璧な人間ではない感じ。
- T：みなさんはどちらのメロスに共感できますか。
- S 4：絶対原作のメロスです。現実には漫画版のような人間はいません。完璧すぎる。
- S 5：原作の方がリアルな人間を描いているね。

傍線部のように、メロスの人物設定と生徒の実生活を結びつける問いによって、原作が描いたメロスの人間味を味わうことができる。初読から漫画の方が良いとしていた生徒も、この時間をきっかけに原作派へと大きく傾いていった。

3 実践の成果

授業後に行ったアンケートでは、89.4%の生徒が「授業がよく分かった」と答えており、72.3%の生徒が「授業が楽しかった」と答えている。漫画を使用した導入にすることで、生徒全員が大まかなあらすじを捉えることができ、その後の活動も意欲的な姿がよく見られた。また、本実践を行った生徒たちが行った、令和6年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問においては、「国語の勉強は好きですか」の質問に対し、本校の87.3%の生徒が肯定的に答えた。県や全国の平均と比較しても、高い数値となっており、本単元をはじめとした、生徒の日常に近い媒体を単元に組み込むことによって、国語好きの生徒が増えたのではないかと考える。



【授業後のアンケート】



【令和6年度全国学力・学習状況調査の生徒質問】

漫画の教材化はただ興味関心を引くためのものではない。漫画と原作の両者を比べることで、原作をより深く味わうことができる。生徒の最終意見文には以下のよう記されている。

原作の主題は「人間らしさ・人間の本性」だという意見が出たときにもものすごく納得した。(中略)もしも自分がメロスだと思って原作と漫画を読むと、漫画のメロスは不可能だと思う。目の前に濁流があれば誰だってためらうし、山賊を倒したら気にもとめずに走り去ると思う。だから、原作のメロスを読むと、ものすごく共感できた。漫画は理想のメロスを書いているが、原作は、みにくさ、悲しさ、つらさ全てを含めたメロスなので原作のメロスの方が良いと思った。(一部抜粋)

理想を描いた漫画を読んだ後、現実を描いた原作を読むことで、その魅力が浮き彫りとなる。もちろん、漫画の良さも理解しながら、原作の良さを深く味わえているのではないだろうか。

また、授業の最終振り返りには、以下のような記述があった。

原作だけをみて登場人物の人物像や主題を考えるよりも、その原作をもとにしたまんがなどと人物像や主題の違いを比べると、もっと分かりやすくなるし、その効果も分かりやすくなることを学んだ。(中略)例えばジブリ作品はほとんど原作があり、それをもとにつくられた作品が多いので、原作の方も読んでみて、ジブリとのちがい(人物設定や主題など)をみつきたい。(一部抜粋)

本実践の学びは『走れメロス』だけにとどまらない。生徒の日常生活には、文学作品をリメイクした作品があふれている。漫画化や映画化された作品も数多く存在する。そうした作品を目にしたとき、原作を読みたい、原作と比べてみようという意欲を高めることができた。

4 普及させたい取組と期待される効果

これまで実践されてきた、『走れメロス』と原作となった『人質』との比較読みは、太宰治の意図を考える上で非常に有効な実践であるといえる。しかし、初読でのつまずきや、文章同士の比較における難しさによって、全員参加の授業から遠ざかってしまう場合がある。漫画との全文比較は、生徒全員に主体的な学習への参加をもたらし、深い学びへのきっかけを与えてくれるものだと言える。『走れメロス』にとどまらず、『ごんぎつね』(小学校教材)や『舞姫』(高等学校教材)など漫画化されている教科書教材は多く、様々な校種での実践も期待できるだろう。

5 課題及び今後の取組の方向

原文と漫画の比較読みを行うにあたり、単元あたりの時間数が多くなってしまう。教師が単元で身につけたい力を明確に定めた上で、比較読みを行わないと、「活動あって学び無し」の状態に陥ってしまう危険性がある。

生徒の活発な意見交流があった授業であるが、あくまで「教師主導」の授業となっている。生徒自身が問いを立てる時間を確保し、生徒主導の学びにより近づけるようにしていきたい。

引用：1 高芝昌子『コミック版走れメロス・富嶽百景』 2010年 ホーム社